

西村天囚没後100年記念企画展

種子島が生んだ偉人

—よみがえる資料と精神—

令和6年(2024年)は、本市出身の漢学者、ジャーナリストである「西村天囚」が没してから100年を迎える記念の年になります。

郷土の偉人「西村天囚」と、その師「前田豊山」の事績に触れる機会として、企画展を開催いたします。

「西村天囚」が再建に尽力した大阪の漢学塾「懐徳堂」についての資料も、大阪大学総合学術博物館のご協力をいただいで特別展示させていただきます。

市民の皆さまの多数のご来場をお待ちしております。



大礼服姿の西村天囚

開催期間: 令和6年 7月13日(土)から 9月15日(日)まで

開催場所: 種子島開発総合センター「鉄砲館」

入館時間: 午前8時30分から午後5時まで
(ただし、入館は午後4時30分まで)

入館料: 企画展のみの入館は無料
(常設展示をご覧になる方は、入館料が必要です。)

問い合わせ先

西之表市企画課歴史文化活用係 ☎0997-22-1111(内線280)

種子島が生んだ偉人

―よみがえる資料と精神―

西村天囚没後一〇〇年記念企画展



西村天囚は「鉄砲館」のあるこの場所で生まれました。石碑は正面玄関から出て左手にありますので、ぜひご覧ください。

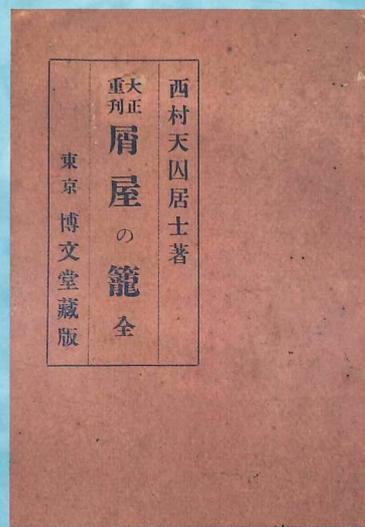
開催期間：令和6年7月13日（土）から9月15日（日）まで

開催場所：種子島開発総合センター「鉄砲館」

入館時間：午前8時30分から午後5時まで
（ただし、入館は午後4時30分まで）

西村天囚ってどんな人だったの？

にしむらてんしゅう
西村天囚は近代日本を代表する漢学者・ジャーナリストです。本名は時彦^{ときつね}、号は天囚または碩園^{せきえん}。現在「鉄砲館」が建っているこの場所で、慶応元年（1865年）に生まれました。天囚は早くに父を亡くし、郷里の儒者前田豊山^{まえだほうざん}に学んだ後に上京して東京大学古典講習科に入学。22歳で社会風刺小説『屑屋の籠』を出版し、一躍文名を上げました。



『屑屋の籠』（鉄砲館所蔵）



大阪朝日新聞在職中の写真
（西村貞則氏所蔵）

朝日新聞有名コラム「天声人語」を命名

てんせいじんご
24歳で大阪朝日新聞社に入り、後に主筆となります。朝日新聞の有名コラムとして120年続いている「天声人語」は天囚が命名したものです。44歳の時には特派員として世界一周旅行にも参加しています。



京都帝国大学出講時の
紋付羽織写真 ※天囚は前列右端
（西村貞則氏所蔵）

漢学塾「懐徳堂」の顕彰と再建に尽力

かいとくどう
大阪在住中に天囚が最も力を入れたのは、漢学塾「懐徳堂」の顕彰と再建でした。大正5年（1916）からはその教壇に立ち、また京都帝国大学の講師も務めました。



宮内省御用掛の際の大礼服を着用した西村天囚（西村貞則氏所蔵）

宮内省御用掛として、皇室関係でも活躍

大正10年からは宮内省御用掛に任命され、皇室関係の詔書を起草するなど活躍しますが、大正13年（1924）に60歳で亡くなりました。天囚の旧蔵書は、再建された懐徳堂を経由して、戦後大阪大学に寄贈され「碩園記念文庫」として収められています。

種子島出身横綱と親交がありました

横綱西ノ海^{にし の うみ}（1880～1931）は、種子島西之表下西出身の力士です。本名は牧瀬休八^{まきせ きゅうはち}。関脇、大関、横綱と昇進し、郷土に錦を飾っています。現時点において、種子島出身で唯一の横綱です。

天囚は、この西ノ海と親交がありました。西ノ海の身長は「六尺一寸」（185cm）、天囚は「六尺」でした。天囚が力士に劣らぬ堂々たる体格だったことが、この写真から分かります。



西ノ海を囲む種子島関係者
（西村貞則氏所蔵）※天囚は後列左側

西村天囚が再建に尽力した漢学塾「懷徳堂」ってどんなところ？

懷徳堂は、享保9年（1724）、大坂町人によって創設された学問所です。江戸時代の後半約140年にわたって大坂学術の発展と商道德の育成に貢献しました。一時は、江戸の昌平坂学問所と並ぶ隆盛を誇りました。

第4代学主としてその全盛期を築いた中井竹山^{なか い ちくさん}とその弟の履軒^{りんけん}、富永仲基^{とみながなかもと}、山片蟠桃^{やまがた ぼんとう}などのすぐれた学者を輩出しました。

明治2年（1869）に一旦閉校した懷徳堂は、約半世紀を経て、大正5年（1916）に再建されます。懷徳堂の復興と顕彰を進めたのは、西村天囚の呼びかけにより設立された財団法人懷徳堂記念会です。再建された懷徳堂は、昭和20年（1945）の大阪大空襲によって焼失するまで、大阪の市民大学・文科大学として多くの市民に親しまれました。

戦後の昭和24年（1949）、戦災を免れた3万6千点の資料が記念会から大阪大学に寄贈されました。今回の企画展示では、この懷徳堂の代表的な資料を大阪大学総合学術博物館から借用して特別展示しています。

特別展示中の資料紹介

※特別展示中の資料は複製（レプリカ）です



『越俎載筆』
（大阪大学附属図書館所蔵）
出典：国書データベース、
<https://doi.org/10.20730/100244398>



中井竹山肖像画
（大阪大学大学院
人文学研究科所蔵）



入徳門聯
（大阪大学大学院
人文学研究科所蔵）



木製天図
（大阪大学大学院
人文学研究科所蔵）

西村天囚没後100年記念シンポジウム

日時:令和6年8月31日(土) 13:30~16:30

場所:西之表市民会館 ホール ※予約不要、入場無料です。

内容:

【第1部】講演

漢学者西村天囚と横綱西ノ海 —二人をつないだ「孝」の思い—

登壇者 湯浅 邦弘(大阪大学 名誉教授)

【第2部】パネルディスカッション

西村天囚を語ろう 一次の100年のために—

登壇者 湯浅 邦弘(大阪大学 名誉教授)、竹田 健二(島根大学 教授)

陶 徳民(関西大学 名誉教授)、町 泉寿郎(二松学舎大学 教授)

六車 楓(立命館大学 専門研究員)

西村天囚没後100年記念小冊子 『石碑に学ぶ種子島の歴史』発刊

西村天囚が撰文した石碑についての小冊子『石碑に学ぶ種子島の歴史』を刊行しました。「鉄砲伝来紀功碑」「豊山前田先生紀徳碑」「賢母遺蹟碑」「横綱西ノ海顕彰碑」を取り上げ、原文、書き下し文、現代語訳、解説を交えた作品となっております。企画展会場・シンポジウムで配布しておりますので、お手元に1冊いかがでしょうか。また、近日中にPDFデータも西之表市ホームページにて公開予定ですので、そちらからダウンロードいただくことも可能です。

著者:湯浅 邦弘(大阪大学 名誉教授)、竹田 健二(島根大学 教授)

大阪大学総合学術博物館第26回企画展 【懐徳堂300周年記念事業】

懐徳堂って知ってはる？—阪大が受け継ぐ大坂町人の学問所—

今回の企画展に、懐徳堂関連資料の特別展示にご協力いただいた大阪大学総合学術博物館において、懐徳堂300周年の記念展覧会が開催されます。今回の鉄砲館展示ができなかった資料も多数ありますので、ぜひご来場ください。

日時:令和6年10月12日(土)~令和6年12月7日(土)

場所:大阪大学総合学術博物館 560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

主催:大阪大学ミュージアム・リンクス、一般財団法人懐徳堂記念会

問い合わせ先

西之表市企画課歴史文化活用係 ☎ 0997-22-1111 (内線 280)